

漢字の右の小さな文字

きつたか 榮一

それは江戸時代中期には《ふりがな》と呼ばれ 以後の日本に

世界有数の識字率を誇る 国民を育てた

活字印刷の時代となり 日本がふりがなに選んだ活字のサイズが

英国で“ルビ”と呼ばれていたため ふりがなⅡルビ となった

昔 こどもたちは 漢字につけられた“ルビ”に助けられ

なんでも読めるよーと

漫画や童話に 夢中 知的好奇心を大いに育てました

百年以上も出版物が《総ルビ》の国 日本 知ってた？

“民族舞踊” “炭素” “反作用” など 外来語も一層身近に

同時に 近代的 異国風 専門的性格を醸し出す意味の層を纏った

《読む愛》を育んだ “ルビ” 幼い子にも シニアにも読みやすい

少し大きめのフォントのフォントで 復活しませんか

ひらがなが よめるようになって ふと 手にとつて みる

絵本も まんがも 聞いたことのある言葉で いっぱい 声に出す

目と耳で感じながら 情景が現れて来る

「のはらうた」で 子狐が 三回「分かった」と叫んでいる

「ためした ためした ためしたぞ」

君は 自信と高ぶった気持ちで読み上げるに 違いない

——絶対 “化け方” が分かったんだ 試したら大成功！

よし 先を読むぞ！

ルビは宝石 ホントに「一カラットのルビー」です